

伊場遺跡出土の木製よろい、赤色顔料の成分や漆の塗布状況が明らかになりました。

伊場遺跡（浜松市中央区東伊場二丁目ほか）から出土した弥生時代後期（1～2世紀）の木製よろいについて、表面に塗布される赤漆に当時貴重であった水銀朱を用いていることが明らかになったとともに、浜松科学館との協力のもと、黒漆の上に赤漆を塗布している状況を確認しました。

1 伊場遺跡の木製よろい

出土年 1972年右前胴、1973年左後胴が出土

時代 弥生時代後期（1～2世紀）

概要 幅46cm、高さ49cmに復元 ヤナギ材を用い、精緻な幾何学的模様を彫刻している。

赤漆と黒漆で塗布し、後ろには翼状の突起がある。儀礼的な戦闘に使われたものか。

評価 弥生時代の木製よろいは現在までに24例が知られる。組み合わせ式と割り貫き式の2種があるが、伊場例は割り貫き式の極めて良好残存例として、国内で例がない。

2024年、福岡県糸島市深江石町遺跡で類例（未製品）が出土して話題になった。

2 赤色顔料の成分分析

方法 蛍光X線分析（2024年に業者に委託して分析）

結果 赤漆にはベンガラ（酸化鉄、Fe）に加え、水銀朱（Hg）が多く用いられている。

水銀朱は貴重な顔料であり、豊富に用いている本例は特殊な製品であることを示す。

3 表面の漆塗布状況

方法 マイクロスコープによる表面観察調査（2024年、浜松科学館の協力）

結果 漆を多層に塗り分けている状況を確認。黒漆を下地に塗り、赤漆を表面に上重ねしている状況が明確になった。

4 公開情報

夜の科学館 11月8日（金）17:01～20:00 展示解説「伊場遺跡出土の木製よろい」で公開

会場：浜松科学館 ※別途入館料（大人600円、中人300円、70歳以上無料）が必要



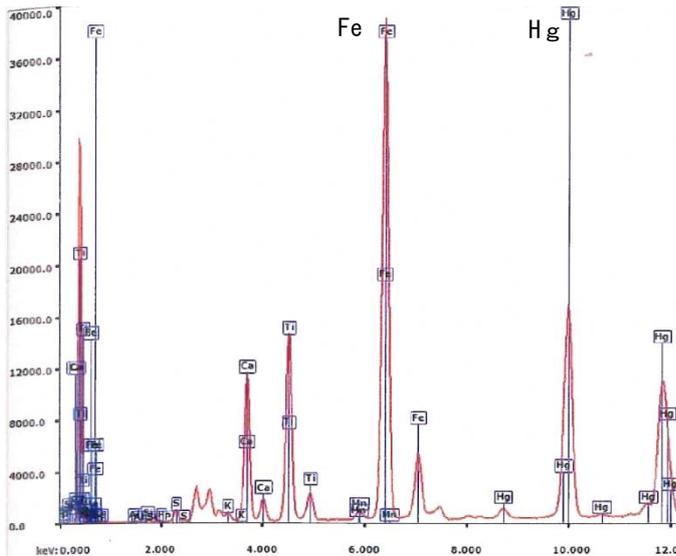
木製よろい復元品 出土した部材をもとに全体形を復元したもの。精緻な彫刻の上に赤漆と黒漆が塗布されている。翼のような突起があり、鳥の羽を模したものとする考えがある。



福岡県糸島市深江石町遺跡木製よろい復元図 2024年に公開された木製よろいの復元図。伊場遺跡例と酷似した翼状突起があり、その関連性が注目された。（糸島市提供）



木製よろい 前胴の部材と後胴の部材が出土した。精緻な彫刻に赤と黒のコントラストが明瞭な事例。1970年代の出土から現在に至るまで、本例を超える弥生時代の木製よろいは知られていない。



赤色顔料の蛍光X線スペクトル 赤色を呈する元素として鉄 (Fe) と水銀 (Hg) の2種のピークが認められる。Hgは水銀朱の使用を示す。



マイクロスコープによる表面観察 浜松科学館との協力により実施。黒漆の上に赤漆を塗布している状況が明確である。